

公 民

1 公民科の学習指導の改善

(1) 学習指導の改善の視点

公民科においては、課題を設定し追究する学習を重視し、各科目でそれぞれの特質に応じた諸課題を取り上げて考察させる中で、社会的事象に対する客観的で公正な見方を深めるとともに、現代社会の諸問題と人間としての在り方生き方について考える力を一層養うよう指導することが大切である。

(2) 効果的な学習指導

ア 現代社会

- (ア) 指導計画を作成する際には、現代社会の基本的な問題に対する判断力の基礎を培い、それと関連させながら人間としての在り方生き方について自ら考える力を養うとともに、学び方の習得を図ることをねらいとしていることに留意することが大切である。
- (イ) 課題追究学習は科目の導入として位置付けられていることに留意し、高度な内容に深入りすることは避け、学習の動機付けにふさわしい学習を展開することが必要である。また、発表したりレポートなどに仕上げる学習活動を通じて、生徒が成就感を持つよう配慮するなど、学習の仕方とともに学び続ける態度を養うよう指導することが大切である。
- (ウ) 社会事象の多面性やそれらが相互に関連し合っていることなどを、自己とのかかわりに着目して多様な角度から考えさせる学習活動を推進するには、指導内容を十分に精選し、基礎的・基本的な事項や事柄を中心にして、身近で具体的な事柄と結び付けて理解し考察を深めることができるよう留意することが大切である。

イ 倫理

- (ア) 指導計画を作成する際には、自己や現代社会の倫理的諸課題を主体的に追究し、人間としての在り方生き方について理解と思索を深め、生きる主体としての豊かな自己形成を図ることをねらいとしていることに留意することが大切である。
- (イ) 自己とのかかわりのなかで豊かな自己形成につながる学習指導を推進するためには、先哲の思想などを手掛かりに、生徒が抱える問題や現代に生きる人間が直面する諸課題を倫理的な視点から捉えることが必要である。学習内容を単に知識として学ぶのではなく諸課題を自らの課題として捉えるよう留意することが大切である。
- (ウ) 課題追究学習を行う際には、諸事象の関係付けや分析・総合などの思考活動を促し、課題についての理解の深化を図ることによって、自ら考え、判断する力を身に付けるよう留意することが大切である。

ウ 政治・経済

- (ア) 指導計画を作成する際には、現代の政治、経済、国際関係の動向や本質を探究し、客観的な見方や考え方を深め、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うことをねらいとしていることに留意することが大切

である。

- (イ) 政治や経済についての見方や考え方を身に付ける学習指導を推進するためには、基本的な概念や理論を具体的な事例を通して学習し、政治や経済に関する事象相互の関連や本質について探究するとともに、広い視野に立って客観的に考察する力や態度を身に付けるよう留意することが大切である。
- (ウ) 課題追究学習を行う際には、政治や経済についての見方や考え方を現実社会の諸課題に当てはめ、事実と付き合わせながら見方や考え方を吟味し、それをさらに深化・発展させることができるよう留意することが大切である。

2 評価の工夫

(1) 評価の基本的な考え方

評価に当たっては、知識や技能の到達度を的確に評価するとともに、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力までを含めた学習の到達度を重視して適切に評価していくことが大切である。公民科の観点別学習状況の評価の4観点「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「資料活用の技能・表現」、「知識・理解」を基本として、目標に準拠した評価を一層重視していくことが重要である。

観点別学習状況の評価を行うためには、次のような視点から評価が行われることが大切である。

ア 「関心・意欲・態度」

- (ウ) 学習対象に対する関心を高め、課題を意欲的に追究しているか
- (イ) 民主的、平和的なよりよい社会の実現に向けて参加・協力する態度を身に付けることができているか
- (ウ) 自己の生き方を主体的に選び取り、意義ある人生を送ることへの自覚を深めようとしているか

イ 「思考・判断」

- (ウ) 現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見いだしているか
- (イ) 現代社会の諸問題の本質や民主政治の本質などについての考察をしているか
- (ウ) 人間の存在や価値など倫理的な考察をしているか
- (ウ) 社会の変化や様々な考え方があることを考慮して判断しているか

ウ 「資料活用の技能・表現」

- (ウ) 諸資料を収集し、有用な情報を主体的に選択・活用しているか
- (イ) 追究し考察した過程や結果を適切に表現しているか

エ 「知識・理解」について

- (ウ) 基本的な事項について、理解をしているか
- (イ) 理解した内容を生きて働く知識として自らの中で体系化し、身に付けることができているか

(2) 評価の工夫

目標に準拠した評価を行うためには、学習指導のねらいが明確になっていることや、学習指導のねらいが実現されたかどうかを評価する方法、手段が準備されていることなどを条件としてあげることができる。

また、公民科の各科目で行われる課題追究学習では、生徒が主体的に課題を設け、資料を集め、様々な観点から考察・判断して結論を導き出すという学習の過程そのものが重視されるため、①課題をどのように設定したか、②課題の本質を捉え解決を図るためにどのような情報を取り出し活用したか、③どのようなことを考察したか、④どのような根拠でどのような結論を導き出したかなど4つの視点から評価を行う必要がある。

3 学習指導案の作成

(1) 「現代社会」における課題追究学習の指導例

I 指導計画

「第1章 現代に生きる私たちの課題」

ガイダンスとモデリング (2時間～3時間)

課題設定 (1時間)

課題追究学習 (3時間)

発表 (4～5時間)

まとめ (1時間)

II 学習指導の計画

指導段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
ガイダンスとモデリング (2～3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 課題追究学習についての実例の紹介 課題設定に向けての説明 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の実例の紹介を聞き、感想や関心を持ったことや評価等をワークシートに記入する。 教科書や資料集等を参考にして興味・関心をもった事項について列挙し、その理由をあわせてワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師自身が生徒の実態を踏まえ、課題追究学習の参考になるよう十分配慮して適切な課題追究学習例を紹介する。 高度な内容に深入りすることは避け「問題の本質は何か」「何をすべきか」「何ができるか」について主体的に追究することにより、現代社会の理解を図り、在り方生き方を考えさせるとともに、「学び方」を習得させることを目的としていることに留意する。 ワークシートの内容から、課題追究学習に興味・関心を高めたか、教師のモデリングが今後の課題追究学習に生かされるか分析・評価する。 実例の紹介を踏まえ、学習指導要領に示されている「地球環境問題」、「科学技術の発達と生命の問題」等の5つの課題から自己とのかかわりに留意し、主体的に課題設定ができるよう配慮する。 ワークシートの内容から、学習内容に興味・関心をもったか、興味・関心が課題設定に生かされているか分析・評価する。
課題設定 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の課題設定 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の助言を聞き、課題を設定する。 選んだ課題、設定理由、課題追究学習の進め方等についてワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に列挙された興味・関心をもった諸事項の代表的なものについて、課題設定に生かされるよう教師が助言を加える。 課題を設定できない生徒には教師が援助する。 生徒の学習活動やワークシートの内容から、課題設定に至る過程や課題追究学習の進め方について分析・評価するよう努め、課題設定学習に適切に生かされるよう留意する。
課題追究学習 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集と活用 課題追究の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 課題にかかわりどのような資料をどのように収集し、どのように活用するかについてワークシートにまとめる。 生徒個々が課題追究を実施し、レポートや報告書にまとめ、発表の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会事象に対する客観的かつ公正なものの見方や考え方の育成と学び方や調べ方の習得を図るよう配慮する。 膨大な資料の中から必要な情報を選び出すことが大切であることに気付かせるよう留意する。 統計などの資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法などについて指導し、コンピュータや情報通信ネットワークなどを効果的に活用することについても留意する。 学習活動やワークシートの内容から、諸資料を収集し、有用な情報を主体的に選択しているか、今後の課題追究に有効なものになっているか分析・評価する。 課題のもつ背景や問題点について、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追究させ、追究の過程や思考過程を論理的に表現し、所定の時間内にまとめたものに仕上げることの大切さなどについて指導する。 学習活動やレポート・報告書から、諸資料を有効に活用しているか、様々な観点から自己とのかかわりに着目して総合的に考察しているか、追究し考察した過程や結果を適切に表現しているか分析・評価する。
発表 (4～5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 課題追究学習の成果と発表の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 課題追究学習についての発表を通じ、他の生徒とともに自分の発表についての評価や感想をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の発表について公正な評価を行うとともに、自己の発表にも適切に自己評価するよう配慮する。 発表やレポート・報告書から、追究し考察した過程や結果を適切に表現しているか、他者によりよく伝えることができているか分析・評価する。
まとめ (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> まとめと講評 	<ul style="list-style-type: none"> 教師によるまとめと講評を聞き、自分の課題追究学習についての反省や今後の課題等についてワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の良い面を中心に講評して成就感を持たせるとともに、多様な観点から総合的に考察することや主体的に考察することの大切さを強調し、以降の学習の動機付けとすることに留意する。 ワークシートの内容から、学習内容に対する関心を高めているか、後の学習対象について積極的に関心をもったか分析・評価する。

(2) 「倫理」における課題追究学習の指導例

I 指導計画

「第2章 ウ 現代の諸課題と倫理」～倫理的課題の追究で「生命」を扱う事例

ガイダンス (1時間)

グループでの課題追究と討議 (4時間)

発表 (1時間)

II 学習指導の計画

指導段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
ガイダンス (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題追究学習についての説明 ・「死」について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題追究学習のねらいや学習の進め方について理解する。 ・「死」について取り上げた新聞記事をクラス全体で読み、それについての感想を数人の生徒が発表する。 ・「死」に関する既習事項の整理と、自分の「死」について、①自分自身は、②身近な者は、③第三者は、それぞれどのようなとらえ方をするかをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が課題追究学習のねらいを十分理解し、学習を進めることができるよう配慮する。また、最後に行われる発表が効果的なものになるような発表方法を紹介し、イメージをもたせる。 ・評価の方法についてもガイダンスで説明する。 ・新聞記事の内容については、課題追究学習の導入であることを踏まえ、生徒の興味や関心を高め、次時の課題設定のヒントになるような記事を選択するよう留意する。 ・生徒が発表する感想については、視点の違う感想がでてくるよう配慮する。 ・生徒が自己の立場から「死」について考えることができるよう配慮し、同じ「死」でありながら、立場の違いによってとらえ方が違うことに気付かせるよう留意する。 ・脳死に関するアンケート結果やドナーカードを実際に見せるなどの工夫をする。 ・先哲の思想や日本人の宗教観や死生観などの既習事項が正しく理解されているか、「死」についての自己とのかかわりなどについてワークシートを点検、分析し、次時の学習活動に生かすよう留意する。
グループでの課題研究 と討議 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 ・資料収集と活用 ・討議とまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ(6～7人でグループ)単位で課題追究学習を進める。 ・前時の学習を踏まえ、現代社会における人間の「死」にかかわる諸問題の中から各グループ内で追究学習の課題を2～3つ選ぶ。また、その課題を選んだ理由と課題追究学習の計画についてワークシートにまとめる。 ・設定した課題を分担し、それぞれの担当者が課題にかかわる資料を収集し報告書にまとめる。 ・担当者の報告書をもとに、設定した課題について討議をし、グループの統一した意見としてまとめる。 ・討議の後、全体での発表方法を決め、発表のための配布資料や提示資料を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における人間の「死」にかかわる諸問題として、安楽死、尊厳死、終末医療、脳死移植など「死」についてより具体的に考察できる課題を設定できるよう工夫する。 ・各グループにおいて、同じ課題を複数の生徒が担当することによって、課題を多面的にとらえることができるよう指導することによって、課題追究学習を進めていく上で倫理・宗教・哲学・科学・法律など様々な視点から考察するよう配慮する。特に、既習事項を踏まえた課題追究学習ができるよう留意する。 ・課題設定や課題追究学習の計画が主体的に行われているか分析・評価する。 ・資料収集にあたっては、統計などの資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法などについて指導し、コンピュータや情報通信ネットワークなどを効果的に活用できるよう指導する。 ・資料収集を意欲的に行い、収集した資料を適切に活用し、報告書に生かされているか分析・評価する。 ・自己とのかかわりに着目して多角的・多面的な観点から総合的に考察・理解しているか分析・評価する。 ・討議では、自分の考えをわかりやすく伝える大切さと、自分と違う意見を尊重する姿勢を養うよう配慮する。 ・設定した課題の社会的背景や現状と問題点について正しく理解しているか分析・評価する。 ・発表する際、グループの全員が何らかの形でかかわることができるよう配慮する。
発表 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題追究学習の成果の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にグループごとにまとめた意見をクラス全体に発表する。 ・自分のグループの発表と他のグループの発表を評価し評価表に記入する。 ・他のグループの発表内容を記録し、自分のグループのまとめのの違いや感想をワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表に対する質疑の時間を設け、それぞれのグループの発表に対して、教師が助言を与え、成就感をもたせるよう配慮する。 ・他のグループの発表について公正に評価を行うとともに、自分のグループの発表に対しても適切に自己評価するよう指導に配慮する。 ・評価表の記入が適切に行われているか分析・評価する。 ・ワークシートの内容から、「死」についての課題追究学習を通して、「死」をめぐる様々な問題を理解し、生きることの意義を自ら考えることができたか分析・評価する。

(3) 「政治・経済」における課題追究学習の指導例

I 指導計画

「第3章 イ 国際社会の政治や経済の諸課題 国際社会における日本の立場と役割」
ガイダンス (2時間)

調べ学習と中間報告会 (4時間)

ロールプレイング (2時間)

反省会 (1時間)

まとめ (1時間)

II 学習指導の計画

指導段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
ガイダンス (2時間)	・既習事項の整理 ・ビデオ視聴	・ワークシートを使用してODAについての既習事項を整理し、新しい視点で考察する。 ・わが国のODA事業によって完成されたダム建設の模様を示したビデオの視聴をする。 ・ワークシートにODAの課題について記入する。	・大項目1や大項目2などの学習の成果の上に乗って考察を深めさせるよう留意する。 ・ワークシートに記入された内容から新しい視点で既習事項を見つめ直すことができたかどうか分析・評価する。 ・ワークシートに記入された内容からODA事業の抱える様々な課題について関心を高め、課題を意欲的に追究しようとしているか分析・評価する。
調べ学習と 中間発表会 (4時間)	・前時の復習 ・ロールプレイングの説明と役割分担 ・グループによる調べ学習 ・中間報告会	・ODAの諸課題について前時に考えた内容と比較して、ワークシートに記入する。 ・ロールプレイングでの役割分担を決定する。 ・グループごとにロールプレイングに必要な資料の収集や選定を行う。 ・毎時間ごとに調べ学習について、自己評価カードに記入する。 ・中間報告会を実施して、方向性を確認する。	・ODAの諸課題について、ODA白書とNGOの報告書等を提示する。 ・ロールプレイングについて説明する。 ・ワークシートに記入された内容から見方や考え方が深化・発展しているか評価する。 ・役割は、(ア)先進国の①外務省・②建設企業・③輸出関連企業・④納税者・⑤青年海外協力隊員、(イ)⑥環境NGO、(ウ)⑦DAC職員、(エ)途上国の⑧政府・⑨建設企業・⑩ダム建設賛成住民・⑪ダム建設反対住民の11グループに分ける。 ・役割については、それぞれの考えにかかわらず、くじ引きなどで機械的に決めるように留意する。 ・収集した資料名と収集した手段、入手先の一覧表を提出させ、主体的に選択・活用しているか分析・評価する。 ・追究の様子がグループでの話し合いなどから課題を主体的に追究しているか分析・評価する。 ・自己評価カードから主体的に参加・協力する態度を身に付けることができているか分析・評価する。 ・中間報告会では、主張する方向性ととも、調べ学習で困っていることを発表して、他のグループからヒントやアドバイスがもらえるようにする。その際、教師からも個別に支援するように配慮する。
ロールプレイング (2時間)	・ロールプレイング	・司会者を選出し、ロールプレイングを始める。 ・他のグループの主張を記録し、自分のグループの主張との違いや疑問点をワークシートに記入する。 ・どのグループの主張が最も説得力があったかを他者評価カードに記入する。	・どのような資料を収集、選定し、どのように考察し、どのような結論を導き出しているか分析・評価する。 ・発言の仕方や内容が適切になされているか分析・評価する。 ・ワークシートの内容からODAの諸課題について考察が深められているか分析・評価する。 ・立場の違いから様々な考えがあることに考慮して、他者評価カードに記入しているか分析・評価する。
反省会 (1時間)	・ロールプレイング反省会	・ODAの在り方や課題について新たに考えたことをワークシートに記入させ、それをもとに発表する。 ・資料の収集や選定方法について、質疑する。	・ワークシートや発表の内容から国際社会における日本の立場と役割について考察が深まっているか分析・評価する。 ・全グループの収集した資料の一覧表を全員に配付し、それを基に、資料収集の方法などについて自己評価カードに記入させ、資料の収集や選定について改善しようとする態度があるか分析・評価する。
まとめ (1時間)	・南北問題と国際社会における日本の立場と役割についてのまとめ	・南北問題と国際社会における日本の立場と役割についてのまとめの説明を聞き、今後取り組んでみたいと考える課題についてワークシートに記入する。	・ODAの在り方や課題について生徒が発表した事柄を題材として、南北問題や国際社会における日本の立場と役割について教師が中心となってまとめる。その際、国際社会の諸課題についての見方や考え方が深まるよう留意する。 ・ワークシートから新たな課題を見いだし、民主的、平和的なよりよい社会の実現に向けて参加・協力する態度を身に付けているかどうか分析・評価する。

4 質疑応答

問1 公民科において学校設定科目を設定する場合の留意点としてどのようなことが考えられるか。

学校設定科目は、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じて、より一層特色ある教育課程の編成をする上で積極的な役割を果たすものであり、各学校の判断によって、独自に設定できるようになった。

学校設定科目の名称、目標、内容、単位数等を定める際には、公民科の目標に基づいて定めるとともに、関係する各科目の内容との整合性に十分留意する必要がある。

なお、公民科に属する学校設定科目としては、北海道立高等学校教育課程編成基準（平成12年度版「高等学校新教育課程編成の手引」p. 137）に、標準例として「時事問題研究」が示されている。その他に考えられる学校設定科目名を右に例示する。

- ・政治経済演習
- ・生命倫理
- ・文化と情報
- ・日本文化講読
- ・法と社会
- ・新聞講読
- ・現代社会と私
- ・教養社会
- ・人間と社会環境
- ・児童文学と青年の自立
- ・国際関係
- ・比較文化

問2 公民科と総合的な学習の時間との関連について、留意すべき点は何か。

公民科の各科目は、教科及び各科目のねらい・目標のもとに、各科目の特質に応じた諸課題を選択的に取り上げ主体的に追究させることができるように内容の改善が図られている。

総合的な学習の時間においても「問題解決的な学習」を積極的に取り入れることとされているが、この時間は学校の教育目標、学校の将来構想等に照らして、どのような生徒を育てたいか、また教育課程の編成全体の中でどのような理念で位置付け、実施していくかを明確にし、それに基づく指導計画の基本方針を立て、全学年の系統性に配慮しながら、学年ごとのねらいを明確にしていくことが大切である。また、全教師が教科・科目の枠を越えて一体となり、各教科・科目等で培われた知識や技能を総合化し、総合的・横断的な課題に対して、問題解決能力や学び方、ものの考え方等の育成を目指すものとされている。

「学習形態・学習方法」については、グループ学習や個人研究など多様な学習形態を工夫するとともに、コンピュータを積極的に利用したり、学習の場を地域社会に求め、自治体や公共図書館、地域の文化財や自然環境等の活用を図るなど両者に共通する部分が多い。

「評価」に当たっては、総合的な学習の時間がその趣旨やねらいに照らして、学習に対する意欲や態度、思考力、判断力、表現力、活動の過程で進歩した点などを適切かつ総合的に評価するのに対して、公民科では目標に準拠して、4つの観点別学習状況による評価を行うことが必要である。

これらの両者の特質を明確にし、公民科の各科目と総合的な学習の時間との有機的な関連を重視し、効果的な指導を推進するよう留意することが大切である。